

あゆみ

ayumi



ごあいさつ

新年おめでとうございます。

一昨年から世界中に広がった新型コロナウイルスにより、みなさまには昨年も大変なご不自由をおかけしました。障害者の方のワクチン接種が遅れたことで、いずみえんでは感染者が発生しました。しかし、高齢者施設ご利用者のワクチン接種は先行して実施していたため高齢者の方の感染者は少なく、感染・発熱したとしても症状は軽く短期で回復されました。ワクチン接種開始当初はいろいろな理由で接種が遅れるような状況でしたが、ワクチン接種が進んだお陰で感染者も少なくなり、昨年秋頃から面会の規制を緩め、限られた時間ですが対面での面会も再開しました。

新しい年が始まりました。大田区のいずみえんでは1月12日より3回目のワクチン接種が始まる予定で、職員も同時に接種することが決まりました。2回目までは施設職員の同時接種が叶わなかったため、今回は大田区の特養・養護施設長会から「利用者と職員の同時接種」について、要望書を提出しました。他施設でも3回目接種に向けた動きをしています。

わたしたちは不足しているサービスや改善すべきことについて、各自治体に要望・提案することで、ご利用者にとって本当に必要なことや正しいことにきちんと目を向けた法人運営を行っていきます。

本年も、まっすぐに未来を見つめ、挑戦することを厭わず、前に進んでいきます。

社会福祉法人 徳心会 理事長 関根陸雄



法人理念

「働き易い職場を創り、快適なサービスを提供する。」



あゆみ保育園だより * * * * *

あゆみ保育園では昨年より幼児クラスが出来、活動の幅が広がりました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため実施できませんでしたが、令和3年10月には第1回運動会を開催することができました。子どもたちは日頃の力を存分に発揮し一人ひとりの成長発達を感じることが出来ました。これからも子どもたちの「楽しい!」という気持ちを大切に保育園では様々な活動を行い、今後も子どもたちのキラキラした笑顔がたくさん見られるような経験をさせてあげたいと思っています。

あゆみ保育園 園長 濱中美穂



デイサービス センター

あゆみえんです!

昨年はコロナ禍での2年目の年となりました。デイサービスセンターあゆみえんでは感染対策をしながらみなさまに楽しんでもいただけるよう考え、レクリエーションを提供してきました。身体を動かすゲームや外出の機会は減りましたが、生け花や制作活動などで季節を感じていただけるように工夫を凝らしてきました。

できあがった作品はご自宅に持ち帰り楽しんでいただき、みなさまの思い出の作品になったと思います。

また、秋の緊急事態宣言解除後には久しぶりの外出行事として近くの若草公園に紅葉を楽しみに散歩に行くことができました。外出時にみなさまから「楽しかった」という声を聞くことができ職員もやりがいを感じることができました。

本年もみなさまと一緒に楽しんでもいただけるデイサービスにしていきたいと思っています。

介護1課 金子知雄

アドバンス・ケア・プランニング (ACP) ってなあに？

訪問看護師の鈴木です。

ご利用者との関わりの中で意識決定に直面する場面が多々あります。急に状態が悪くなることでコミュニケーションを取ることが難しくなったり、脳梗塞を発症し発語が難しく意思疎通が困難になったり、終末期や進行性の病気で意思伝達機能が低下したりと様々な理由でその人がどうしたいのかを知る術が難しいことがあります。

このような事態に備え「あらかじめ医療や介護、日々の暮らしの計画をたてておく」ことをアドバンス・ケア・プランニング (ACP) と言います。

自分らしく暮らしていくために、どんなことを大切にしていきたいかをあらかじめ誰かにつたえておくこと。例えば「毎朝コーヒーを飲む時間を楽しみたい」同時に「受けたい医療や介護」などについても元気なうちから考えておくことが大切です。

ポイント1: 迷ってもいい! 決められないことがあってもいい! あとで変わってもいい!

何を大切にしていくか? どうしたらいいのか? 迷った時には誰に相談するのか? 計画をたてても変わっていくのが普通です。

ポイント2: 考えたことを信頼できる人に話してみる

わたしはどうしたいだろう? そして、わたしの大切な人は、その時どうしたいんだろう?

ポイント3: 考えたこと、話し合ったことを書き留めてみる

自分の価値観や生き方、これからの過ごし方などから終活へとつながるプロセスでもあります。自分だけで考えるのではなく、身近な人と共有することも大切です。

在宅1課 鈴木薫

朝、コーヒーを飲むひとときが私の幸せな時間。



餅つき行事を行いました。

12月17日(金)、年末恒例の餅つきを行いました。お正月の準備を行うことができ、また年末の雰囲気味わっていただけたと思います。

参加されたみなさまからは、「よいしょ!」「どっこいしょ!」と元気なかけ声をいただき、笑顔あふれる餅つき行事となりました。

餅つきは一人ではできないため、みなさまと職員の連帯感を高め、喜びを分かち合えたという意味でも行えてよかったと思います。良く伸びる餅のように末永く(長く)みなさまが健康で幸せでありますようお祈り申し上げます。

介護3課 課長 諸江光宣





大規模防災訓練



11月17日（水）青梅消防署と合同で大規模防災訓練を実施しました。

実際に火災報知機を作動させ出火を想定した訓練を行いました。通報、初期消火、避難誘導の一連動作と、有事の際に消防隊への情報伝達を行う訓練を実施しました。

青梅消防署の方々にご協力いただき、園長指揮のもと各職員が連携して情報共有を行うことができました。消防署職員からも「館内へのアナウンスがはっきりとしていて、わかりやすい放送になっていた。」というお言葉をいただきました。



一方で初期消火の場面や避難誘導の場面では新たな反省点が見えてきましたので、今後の防災訓練に活かしていきたいと思っております。

介護5課 課長 阿部裕樹



青梅紹介

青梅に調布？

調布といえば、東京都調布市が真っ先に思い浮かびますが、青梅にも昔「調布」という地名があったことをご存じでしょうか？ 701年大宝律令が発令され、租庸調の税制度ができました。「調」は現物納付で織物のことを指すことが多く、「調布」という地名が残る場所は布の生産が盛んだった地域が多いそうです。青梅も昔から織物が盛んであり、青梅市の南部、多摩川沿いの地域に調布村がありました。小泉八雲の「雪女」は、この武蔵国調布村の農夫から聞いた話とされています。



現在、市内の町名に調布はありませんが、多摩川にかかる「調布橋」にその名が残っています。大正11年、吊り橋として生まれたこの橋は、織物製品を五日市へ運ぶ、重要な橋でした。今では幅16m、長さ113mの赤いきれいなアーチ橋に架け替えられ、調布橋のたもとには「雪おんな縁の地」の碑があります。多摩川調布橋水位観測所としてライブカメラも設置され、青梅の歴史と川の安全を見守っています。

総務課 福岡直子

□ あゆみえんインフォメーション □

詳しいお問い合わせは、あゆみえん、相談課まで
電話 0428-30-5550

あゆみ VOL.102

発行 社会福祉法人 徳心会
特別養護老人ホーム あゆみえん 広報委員会
〒198-0024 青梅市新町9丁目2153番地3
TEL.0428-30-5550 FAX.0428-30-5570

発行人 園長 笛木昭宏
編集人 広報委員長 諸江光宣
発行日 令和4年1月15日
E-mail ayumien@tokushinkai.jp
HP https://tokushinkai.jp/



※写真につきましては、ご利用者およびご家族の了解を得て掲載しております。
※撮影のため一部マスクをはずしております。

冬になりすっかり寒くなりました。

新型コロナウイルスのほかインフルエンザウイルスやノロウイルスなど、多くのことに気を付けていかなければいけませんね。

冬はおいしい海鮮やおいしい野菜に困りませんし、私は寒いのがとても苦手なので感染対策も含めおうちでゆっくり過ごしています。

寒い冬の季節、みなさまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



イラスト・記事 介護5課 久保田萌奈